

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103142		
法人名	有限会社ネオファミリー		
事業所名	ネオファミリー・和歌山	【ユニット名: 】すみれ	
所在地	和歌山市田中町2丁目19番地		
自己評価作成日	平成22年10月12日	評価結果市町村受理日	平成22年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ネオファミリー(新しい家族)と言う意味合いの中、全職員が笑顔の絶えない環境作りに取り組んでいる。又、重度化傾向にある中、医療機関との連携により、ターミナル期に於ける対応も実践している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3070103142&amp;SCD=320">http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3070103142&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	2010年11月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和歌山市の中心市街地で、一般の住民も入居する高層集合住宅の2階・3階に1ユニットずつある。ユニットの玄関前のエレベーターホールにも一服できるスペースとしてイスやテーブルを配置し、季節を感じる飾り付けで家庭的な雰囲気となるよう工夫している。管理者・職員は「新しい家族」を意味する「ネオファミリー」という事業所名に込めた、我が家のように感じてもらえる介護の実践に努めている。管理者・職員のチームワークもよく、入居者の個々の状況を考えてサービスの提供に取り組んでいる。職員の看取りの経験もふまえ、入居者の高齢化に伴う家族や入居者の希望を容れたターミナル期の対応を積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域性を踏まえ理念の見直しを行い「地域と歩み地域と共に」を追加することにより職員全体が利用者と地域の繋がり的重要性を理解している。	今までの理念を見直し、地域とのつながりを意識した言葉を加えた。管理者・職員は、理念を事務所・ユニットに掲示することで確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週火曜日にゴミ収集場を利用者を交え掃除している。また、散歩等で近隣の公園に出掛け地域の方々との交流を図るように努めている。	各ユニットが別々の曜日に地域のゴミ収集所の清掃を入居者と共に自発的に行っている。近くの公園に散歩に出かけて、地域の人とふれ合う機会を持っている。	さらに、季節の行事など、地域住民と一緒にできる催しを開催することへの取り組みも望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民からの入所相談や見学等もあり、入所に至るケースもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの状況を報告し、地域包括職員や住民の方等による助言や評価を戴きサービス向上に努めている。	運営推進会議は、地域や家族の代表や地域包括支援センターの出席で2カ月に1回開催しているが、参加者は毎回固定されている。事業所の報告中心で、話し合う内容は一般的な話題に留まっている。	地域のいろいろな方面に参加を働きかけ、参加者の意見を事業所のサービス向上に活かす取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険課、生活支援課の方々には積極的に相談やアドバイスを頂くように取り組んでいる。	市の介護保険課、生活保護課、地域包括支援センターとは相談や課題の話し合いを持ち、協力関係を築くよう図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を一人一人が十分理解し、身体拘束のないケアを行っている。夜間のみ外部からの侵入防止の為玄関施錠している。	「身体拘束ゼロ宣言」を掲示している。全員参加の職員会議の中で、身体拘束に関する勉強会を実施しており、日中、事業所の玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて高齢者虐待防止についての理解を深め、事業所内に身体拘束ゼロ宣言を掲示し意識付けを図っている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、必要に応じ活用できるよう意識付けを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始前に利用者や家族さんには十分説明し、理解を得て署名して頂いている。またサービス開始後も必要に応じ説明し、理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で何気ない会話の中で、意見や要望等を傾聴するように努めている。また意見箱の設置もしている。「ネオファミリー通信」を毎月発行し、行事等の写真を掲載し配布している。	意見箱の利用を促すため新たに箱を大きくした。日頃は家族の訪問がよくあるので、意見・要望を表せるような雰囲気作りを心掛け、年1度クリスマスを兼ねた家族会を開いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し易い雰囲気作りに関心掛け、職員会議や申し送り等で意見や提案を聴き、検討し職場の環境改善に努めている。	職員会議や申し送り時に意見を聞くようにし、日ごろのコミュニケーションの中でも疑問や要望を表せる配慮をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康管理を含め、職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧で廻し、希望に添って研修の機会を設けている。また、力量に応じて、適切な研修のすすめを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広範囲に於けるネットワークには至っていないが、同業者との交流の中で運営に関する情報交換は行っている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い傾聴する中で、受容と共感を念頭に不安なことや要望等を受け止め、早期安心のおける関係・環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し易い雰囲気作りを心掛け、ご家族の立場に立ち要望や不安なことを傾聴し、早期解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題を見出し、広い視野で考え対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊厳を大切に守り、暮らしを共にする家族としての相互関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員全員が家族さんとの関わりをもち、共に支えあうことのできる関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年に数回ではあるが馴染みの人の面会がある。また、家族さんの協力も得て、懐かしく思える場所や人との関わりも持てるよう支援している。	年数回知人が訪問してくれる入居者もあり、関係が途切れない支援に努めている。家族の協力で以前利用していた美容院に行ったり、入居者の希望した理髪店へ車イスで出かける支援も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「ネオファミリー」新しい家族との意味合いもあり、家族としての橋渡し役等を含め、孤立感を感じさせない支援に努めている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は電話のやり取りや、遊びに来られたりの関係を継続している家族さんもある。また、時折ではあるが本人さんから電話を戴くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中や表情にあらわれる本人の思いや希望を、くみ取るように努めている。	日々のかかわりの中で声をかけ、言葉や表情から把握に努めている。困難な場合は家族にも相談し、ケアする側からではなく自分だったらどう思うかを考えながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に出来るだけの情報収集に努め、サービス開始後も家族や本人より情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変動する状態を観察し把握するよう努め、職員間で情報を共有するよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議等にて個々の現状に添ったサービスの意見交換を行い、介護計画・モニタリングに反映させている。	入居者の日常の生活動作や介護の実施状況の記録としてのファイルやモニタリングをもとに作成している。計画の見直しは3か月に1回、モニタリングは毎月行っている。	身体面の課題に加えて本人の気持ちや意欲の変化にも配慮した計画の作成への工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外に申し送り等で気づきや意見を交換し、注意点等があった場合は、口頭での申し送りだけでなく、申し送り帳に記入し、チーム全体で共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに添ったサービスの取り入れを視野に入れ支援するよう取り組んでいる。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(警察、消防、民生)との関わりにより安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用時や利用中でも家族さんや本人の希望に添える医療の支援をしている。	家族の希望により、事業所と連携の取れている協力医療機関で受診する入居者がほとんどである。協力医療機関以外のかかりつけ医での受診は家族が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気付きや状態を電話相談や訪問時に伝え、往診や主治医紹介にて専門医の受診を受けられる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療従事者に情報提供書による説明を行い、早期退院に向けての情報交換や受け入れ態勢にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期や重度化した場合における事業所での、出来ること出来ないことを家族さんや関係者等で十分話し合い、医療・家族・介護等のチームで取り組んでいる。	入居時に本人・家族と話し合い、事業所が対応できることを伝え、ターミナル期の支援をすすめる方針である。受け入れ体制も整え取り組んでおり、事業所での看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で冊子による勉強会や実技訓練を行い、慌てず落ち着いて対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練で中消防署予防班の方々との話し合いができており、避難場所や避難ルートを職員全員が把握している。	消防署も参加して、年2回入居者と共に避難訓練をしている。消防署予防班の協力で、エレベーターでの避難は困難なため事業所のベランダに避難して消防車を待つというシミュレーションもできている。	

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や性格を尊重し、気分を害さないよう思いやりのある声かけに努めている。	職員は「親しき仲にも礼儀あり」と考え、入居者の尊厳を大切に、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをするよう努めている。個人情報情報は職員詰め所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位で、可能な限り自己決定していただくような声かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、希望を尊重しているが、他の利用者との都合上、希望に添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により訪問理美容や行きつけ店への支援も行っているが職員に美容師免許取得者がいることで、馴染みの関係をたもちつつその人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員で同じものを一緒に食べることは出来ているが、準備や片づけに関しては、大半が職員で行っている。	入居者の好みを聞きながら献立をたて、オープンキッチンで職員が作っている。時には入居者にテーブルを拭いてもらったりしながら、職員も一緒に食卓を囲み、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量についてはチェック表等で個々の状態や習慣に応じた支援(嚥下状態に添った)をしている。栄養バランスについては専門的観点からのチェックは出来ないが、1600calを一日の目安としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ないが、個々の今までの習慣に合わせ、力に応じた口腔ケアを行っている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個人のパターンに合わせた支援をしている。また、早めの声かけによるトイレ誘導を行い失禁予防に努めている。	排泄チェック表で個人のパターンを把握し、声かけなどでトイレでの排泄を支援している。オムツ使用の入居者には身体機能に応じた配慮で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理の大切さを理解し、水分補給や散歩等での軽い運動を行うことで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間については十分確保できており、入浴時間は本人の希望時間で支援している。また、必要に応じ2人体制で支援している。	職員が一方的に決めず、入居者の希望した日、時間に合わせて入浴している。同性介助や、状態によっては職員2人で介助し、個々の状況に合わせて入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた支援をする中で、その日の体調等を考慮した話し合いを職員間で行い、安心して休息できるよう心掛け支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個々の薬ケースにつけ熟知を図り、薬の変更があった場合には薬剤師に連絡を取り、説明や相談を行い連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日会や外食、散歩等で楽しみや気分転換を図り、自然な笑顔を引き出せるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族さんの協力もあり、墓参りや法事等にも出掛けられている。また、個々の状態に合わせ短時間でも散歩に出掛け気分転換を図るよう支援している。	希望に沿って、近所の公園に散歩に行ったり、コンビニに買い物に出かけられるような支援をしている。時には花見や外食も実施し、日常的な外出が困難な入居者もベランダに出るなどして外気に触れられるように配慮している。	



【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で買い物に出掛けた際には、お金を持っていただき使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に添って連絡することの支援を行っている。また、届いた手紙や電話の取り次ぎも本人にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の装飾品を飾り、季節感を取り入れている。また、不快にならないよう音量や光量、室温にも配慮している。	リビングには食卓の他にテレビとソファがあり寛げるよう配慮されている。オープンキッチンで入居者が調理しやすい作業台を設置しているので互いに顔を見ながら話ができ、生活感のある共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分な広さではないが、利用者同士でのんびりと雑談したり、テレビを見たりできるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく過ごせるように支援する中、テレビやテーブル、小物や家族写真等が持ち込まれている。	各居室にはベッド、クローゼットが備えつけられている。テレビや小さなタンスを持ち込み、身の回りの小物や写真・人形など馴染みのもので家庭的な雰囲気になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札を付けることで場所の把握に努め、混乱を防いでいる。また、手すりやバリアフリー化により、安全な生活を送れるよう工夫している。		